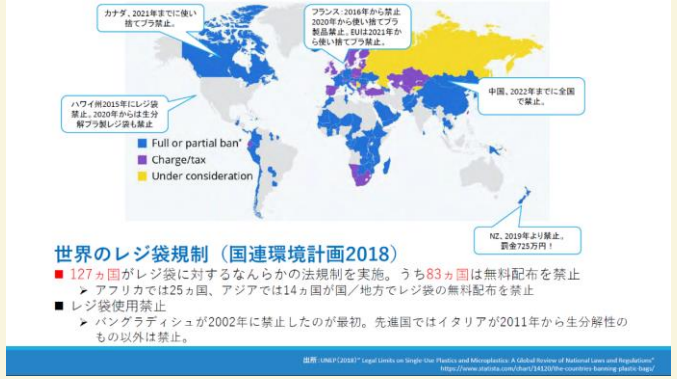
第１回京都府プラスチック対策セミナー概要

2025年3月3日(月)14:00～16:30
@京都経済センター＋オンライン

基調講演

- **「プラスチック汚染に立ち向かう脱プラスチック、そしてサーキュラーエコノミーへ」**
  同志社大学経済学部 准教授 原田 禎夫 様
  - 淀川流域の川岸でも増水後はレジ袋やPETボトル等が残留。大阪湾では漁業被害も
  - 「使い捨てプラの禁止は重要か」という国際的なアンケート調査で、日本は「重要だ」と答える割合が最も低い
  - 世界でレジ袋を禁止する国が増加。東アジアでも、日本と北朝鮮を除く各国では禁止。なお、レジ袋禁止条例を定めた亀岡市では、エコバッグ持参率が98%
  - 日本は焼却処理に依存。他方、EUでは「ゴミを資源にする」循環経済を成長戦略に
  - 日本でも法規制が求められるが、制度を作るのには時間がかかる。また、行政・企業・個人の各レベルでの取組が不可欠
  - 企業が営業活動を行う上では、社会的な評価も重要（社会的免許）。企業活動に対する受容や支援につながる
  - 社会的免許を得るチャネルとしても市場、自治体、コミュニティの間の対話が大事。また、プラごみ問題に関する「価値の共有」も必要。様々な立場の方が集まって議論できる場があるとよい



取組紹介

- **「イオンリテール店舗における取組事例」**
  イオンリテール株式会社 近畿カンパニーマネージャー 寺野 博 様
  - 買い物袋をご持参頂くための有料レジ袋導入1号店は、「京都イオン東山二条店」
  - 店舗別のレジ袋辞退率は「亀岡店」が最も高い。なお、京都は大阪よりも１割程度高い
  - マイバスケットの販売や、木製カトラリーへの切替も実施
  - Loop Japanの事業撤退により、リユース容器商品「Loop」を取扱終了。回収率が5%と低迷

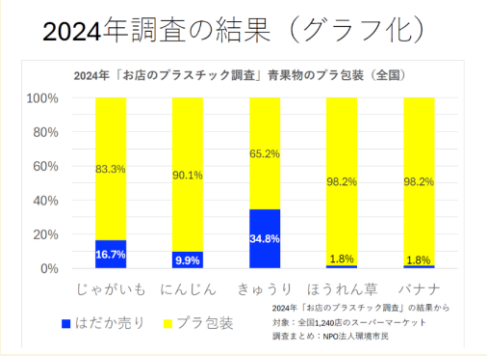
第１回京都府プラスチック対策セミナー概要

取組紹介

- **「リユース容器のシェアリングサービスRe&Go」**
  NISSHA株式会社 事業開発室 Re&Goプロジェクトリーダー 吉村 祐一 様
  - Re&Goが目指す姿は、「リユース容器が当たり前の社会に」
  - リユースカップは、利用→返却→洗浄→納品、というシンプルなフロー
  - 実証実験の返却率は99.9%だが、解決すべき課題は主に２つ。①適切なサービス価格での提供、②ユーザー・店舗スタッフの手間。つまり「使い捨て容器と変わらない体験の提供」

- **「使い捨てのプラスチック製アメニティを無くすことによるプラごみ削減への取組」**
  滋賀県旅館ホテル生活衛生同業組合 理事（琵琶湖ホテル副総支配人） 黒田 拓也 様
  - プラ代替品の検討から開始。また、実態調査を行い、組合員の廃棄量やCO2排出量を把握
  - お客様に対しても、理解や持参を呼びかけるメッセージカードやポスターを作成
  - 価格帯が高いホテルではプラ代替品が標準化。また、アメニティ削減によりルームメイクの迅速化やごみ排出量の削減も。琵琶湖ホテルでは8割の方がアメニティ持参

- **「お店のプラスチック調査」の結果活用による地域活動提案**
  認定NPO 法人環境市民プロジェクトリーダー 堀 孝弘 様
  - 欧米では青果物のはだか売りが普通。フランスでは2022年に青果物のプラ包装禁止法が制定
  - 日本ではデータも存在しないため、2023年と2024年に、全国の団体・ボランティア等の協力を得て調査。結果は、はだか売りが約1割、プラ包装率が9割。「西高東低」という傾向も
  - 小売業者、流通業者、消費者等と連携して、はだか売り率30%以上を目指して活動したい



第１回京都府プラスチック対策セミナー概要

パネルディスカッション

- **ファシリテーター：同志社大学経済学部 准教授 原田 禎夫 様**
  ファシリテーターから取組についての問いかけに対して各取組紹介者が答える形で進行。以下、敬称略。
- **取組の深掘り**

（イオンリテール）
- 有料レジ袋に関しては、収益を環境やこどものために使っていると説明すると理解いただけることが多い
- 全国的にみても、京都のマイバッグ持参率は高い。亀岡店がけん引
- 協定方式でレジ袋有料化を進めた京都市など、行政の仕組み・取組がある地域は持参率が高い

（NISSHA）
- 高い返却率の要因は、客に行動を変えてもらうのではなく、ルーティンで使ってもらうこと。ただ、利用率は店舗ごとに差がある
- 店員の声掛けによる違いも大きい。声掛け有無の実証実験を行ったところ、利用率に大きな差がでた
- 返却を促す仕組みとして、身近なコミュニケーションツールである「ライン」による登録制が効いているのでは
- 今後は保温・保冷も打ち出していきたい。実証実験でも保冷性能を評価する意見が多い

（滋賀県旅館ホテル生活衛生同業組合）
- SDGs行動宣言の策定、具体的な取組や代替製品の検討など、ステップバイステップで進めた。各段階で組合員や宿泊客の共感を得ることを意識した
- 海外の先進事例と比べるとまだ大きな差がある。環境の取組を評価する制度や見える化する仕組みがあることが望ましい
- 教育旅行を多く受入れ。多数の学校にも取組に協力いただけている。環境学習のメニューとしてホテルスタッフがSDGsの講演も
- 全国チェーンのビジネスホテル等は組合未加入だが、必要なアメニティだけ持っていく形式が増えるなど、全国的に動きがある

（原田准教授）
- ✓ アメニティの削減は、生産性向上や、浮いたコストによる宿泊客の体験価値の引上げにもつながる
- ✓ 修学旅行の受入は、次の世代に「環境に配慮したビジネス」を示すという格好の教材にもなる
- ✓ 海外の宿泊予約サイトでは客側が環境の取組も評価する仕組みがある。また、海外ではアメニティの無料提供はほとんどない

第１回京都府プラスチック対策セミナー概要

パネルディスカッション

- **取組の深掘り**

  （環境市民）
  - ➢ プラ包装の「西高東低」という地域差の要因として、自治体の分別方法による影響があるかもしれないので調査したい。ある小売業者においても、リサイクル品の店舗回収量は関東の方が多いとのこと。特に、関西は大阪湾フェニックスセンターという埋立処分場もある。
  - ➢ 事業者にお願いするだけではなく、消費者にも働き掛けていきたい。
  - ➢ 滋賀県による「ポリ袋は必要なだけ」啓発については、大きな反響がない状況。ただ、消費者団体から提案していくのも大事。特に、レジ袋有料化以降、マイバッグ持参の懇談会等がなくなったという意見も多い

  （原田准教授）
  - ✓ 関西にはリサイクル業者が少ないため育成も重要

- **ポジティブな声**

  （イオンリテール）
  - ➢ 地域の小中学生向けに「チアーズクラブ」活動を実施。活動をきっかけに、関連する職業に就職された方も

  （NISSHA）
  - ➢ インセンティブなしのアンケートで700もの回答。ほぼ100%が賛同意見。丁寧な回答も多数
  - ➢ インタビュー調査では、Re&Goをきっかけに特定の店舗のリピーターになった方も

  （滋賀県旅館ホテル生活衛生同業組合）
  - ➢ 今も否定的な意見もいただく中で継続している取組。宿泊されたゲストによる「共感する」という口コミやコメントの書込みだけでもありがたい

  （原田准教授）
  - ➢ よい取組をしてもポジティブな評価はなかなか企業に届かない。ぜひ、よい取組をする企業にポジティブな意見を届けてほしい
  - ➢ それにより取組は加速し、さらには、行政と一緒になって新しい仕組みを作ることにもつながる